

2023年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年1月13日

上場会社名 and factory株式会社 上場取引所 東
 コード番号 7035 URL <https://andfactory.co.jp/>
 代表者（役職名） 代表取締役社長 （氏名） 青木 倫治
 問合せ先責任者（役職名） 取締役 （氏名） 蓮見 朋樹 （TEL） 03-6712-7646
 四半期報告書提出予定日 2023年1月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2023年8月期第1四半期の業績（2022年9月1日～2022年11月30日）

（1）経営成績（累計） （%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年8月期第1四半期	709	6.3	25	1.0	15	—	14	—
2022年8月期第1四半期	667	△7.2	25	—	△25	—	△23	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年8月期第1四半期	1.42	1.42
2022年8月期第1四半期	△2.36	—

（注）2022年8月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年8月期第1四半期	5,490	1,055	19.2
2022年8月期	4,855	540	11.1

（参考）自己資本 2023年8月期第1四半期 1,055百万円 2022年8月期 540百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年8月期	—	—	—	—	—
2023年8月期（予想）	—	0.00	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年8月期の業績予想（2022年9月1日～2023年8月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,140	10.8	100	51.3	68	—	64	—	6.50

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料7ページ「2. 四半期財務諸表及び主な注記(3) 四半期財務諸表に関する注記事項(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年8月期1Q	11,261,970株	2022年8月期	9,853,520株
------------	-------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2023年8月期1Q	257株	2022年8月期	257株
------------	------	----------	------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2023年8月期1Q	10,178,289株	2022年8月期1Q	9,843,689株
------------	-------------	------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社の主要な事業領域である電子書籍市場については、インプレス総合研究所の「電子書籍ビジネス調査報告書2021」では、2020年度の電子書籍市場規模は4,821億円で、そのうちコミックが占める割合は83.0%であり、また同研究所の「電子書籍ビジネス調査報告書2022」によれば、2021年度の電子書籍市場規模は5,510億円と前年度から14.3%増加し、そのうち84.6%にあたる4,660億円をコミックが占めていることから、近年コミック市場の規模は拡大傾向にあるといえます。また、同「電子書籍ビジネス調査報告書2022」によれば、2026年度には電子書籍市場は2021年度の約1.5倍の8,048億円に拡大すると予想されていることから、当社としては今後も市場拡大のトレンドは継続していくと見込んでおります。

このような経営環境の中、当社は、「日常に&を届ける」をミッションとして掲げ、中核事業となるAPP事業において、主に大手出版社と共同開発したスマートフォン向けのマンガアプリの収益拡大に注力してまいりました。

APP事業において、主力事業であるマンガアプリ事業では広告市況の悪化に伴い広告ARPU（注1）が低下したため広告収益が減少しましたが、課金率の高いアプリが好調に推移したことや人気作品の牽引によって課金売上が増加いたしました。エンタメ事業では古い事業が好調に推移し、APP事業全体で売上高は前年同期を上回って着地いたしました。一方、今期は古い事業において集客を強化するために広告宣伝費を積極的に投下しており、営業利益は前年同期と比較してやや減少しました。

RET事業においては事業構造改革により&AND HOSTELの運営にかかる損益が大幅に改善したこととともに、入国規制の緩和により外国籍の宿泊者数が増加傾向にあることで、稼働率も徐々に回復しております。

以上の結果、当第1四半期累計期間における売上高は709,102千円（前年同期比6.3%増）、営業利益25,284千円（前年同期比1.0%増）、経常利益15,169千円（前年同期は経常損失25,375千円）、四半期純利益14,453千円（前年同期は四半期純損失23,247千円）となりました。

セグメント別の業績を示すと、次のとおりであります。

① APP事業

当第1四半期累計期間において、出版社や株式会社アムタスと協業で運営している7つのマンガアプリについて、効率的な広告宣伝費の投下による新規ユーザーの獲得や既存ユーザーの継続を促す施策等を実施したことでMAU（注2）は好調に推移しております。また、人気コンテンツの掲載や作品追加等によって課金売上は増加しました。

一方で、新型コロナウイルス感染症の影響による広告市況全体の悪化等が影響し、広告ARPU（注1）は下降傾向にあり広告収益が減少しました。

この結果、当第1四半期累計期間におけるAPP事業の売上高は688,477千円（前年同期比9.7%増）、セグメント利益は128,850千円（前年同期比7.0%減）となりました。

（注）1. Average Revenue Per Userの略称であり、ユーザー一人当たりの収益単価であります。

2. Monthly Active Userの略称であり、1ヶ月に一度でもアプリを利用したユーザーの数を指します。

当社のAPP事業において運営するスマートフォンアプリのうち、「マンガアプリ」の四半期毎の平均MAU数の推移は下表のとおりであります。

(単位：万人)

年月	平均MAU数	年月	平均MAU数
2017年5月末	31	2020年5月末	906
2017年8月末	65	2020年8月末	994
2017年11月末	108	2020年11月末	1,026
2018年2月末	150	2021年2月末	1,054
2018年5月末	204	2021年5月末	1,056
2018年8月末	238	2021年8月末	1,101
2018年11月末	279	2021年11月末	1,046
2019年2月末	362	2022年2月末	1,044
2019年5月末	430	2022年5月末	1,121
2019年8月末	532	2022年8月末	1,152
2019年11月末	641	2022年11月末	1,129
2020年2月末	720		

(注) 上記の平均MAU数は、各四半期における平均値を記載しております。

② RET事業

当第1四半期累計期間において、当社が運営する宿泊施設である「&AND HOSTEL」では、入国規制の緩和の影響等もあり、外国籍の宿泊者からの予約が増加し各店舗で稼働率は回復基調となりました。また、一部店舗における契約見直しを実施した結果、当社が収受する売上高及び負担費用が圧縮され前年同期と比較して赤字幅は縮小いたしました。不動産関連売上は、不動産賃貸収入は継続して発生しておりますが、前年同期には物件売買仲介手数料がスポットで発生したため、前年同期と比較すると売上高が減少いたしました。

この結果、当第1四半期累計期間におけるRET事業の売上高は20,624千円（前年同期比45.0%減）、セグメント損失は12,024千円（前年同期はセグメント損失15,068千円）となりました。

③ その他事業

前事業年度までは、他のセグメントに属さない新技術等を用いたエンターテイメント領域の企画検討等を実施しておりましたが、収益確保が見込めないため当事業年度においては継続しないことと判断いたしました。

この結果、当第1四半期累計期間におけるその他事業の売上高は0千円（前年同期比100.0%減）、セグメント利益は670千円（前年同期はセグメント損失10,514千円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期会計期間末における総資産は5,490,812千円となり、前事業年度末に比べ635,414千円増加いたしました。これは主に敷金及び保証金が196,510千円減少した一方で、現金及び預金が848,502千円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第1四半期会計期間末における負債合計は4,435,364千円となり、前事業年度末に比べ120,961千円増加いたしました。これは主に、未払金が134,054千円、解約損失引当金が179,534千円減少した一方で、預り金が320,566千円、長期借入金（1年内返済予定の長期借入金含む）が155,716千円増加したこと等によるものであります。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産は1,055,448千円となり、前事業年度末に比べ514,452千円増加いたしました。これは四半期純利益の計上により利益剰余金が14,453千円、第三者割当増資により資本金が249,999千円、資本剰余金が249,999千円増加したことによるものであります。

なお、自己資本比率は19.2%（前事業年度末は11.1%）となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点の業績予想につきましては、2022年10月14日に公表した通期業績予想から変更はありません。

なお、上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年8月31日)	当第1四半期会計期間 (2022年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	479,131	1,327,633
売掛金	524,777	503,560
仕掛品	-	2,038
販売用不動産	3,118,940	3,111,576
立替金	196,779	166,577
その他	37,932	75,339
貸倒引当金	△12,347	△13,489
流動資産合計	4,345,213	5,173,238
固定資産		
有形固定資産		
建物	11,640	11,640
工具、器具及び備品	64,646	65,135
減価償却累計額	△46,546	△47,376
有形固定資産合計	29,740	29,399
無形固定資産		
ソフトウェア	55,317	76,768
ソフトウェア仮勘定	18,375	1,223
無形固定資産合計	73,692	77,992
投資その他の資産		
投資有価証券	165,607	165,607
敷金及び保証金	237,773	41,263
その他	3,369	3,311
投資その他の資産合計	406,750	210,182
固定資産合計	510,184	317,574
資産合計	4,855,398	5,490,812

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年8月31日)	当第1四半期会計期間 (2022年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	100,073	102,752
短期借入金	265,000	250,000
1年内返済予定の長期借入金	277,136	277,136
未払金	514,051	379,996
未払法人税等	13,051	5,205
賞与引当金	304	-
株主優待引当金	36,464	18,847
解約損失引当金	179,534	-
預り金	8,312	328,879
その他	36,723	33,078
流動負債合計	1,430,651	1,395,896
固定負債		
長期借入金	2,877,206	3,032,922
長期預り保証金	6,545	6,545
固定負債合計	2,883,751	3,039,467
負債合計	4,314,402	4,435,364
純資産の部		
株主資本		
資本金	551,819	801,818
資本剰余金	550,460	800,460
利益剰余金	△560,710	△546,257
自己株式	△572	△572
株主資本合計	540,995	1,055,448
純資産合計	540,995	1,055,448
負債純資産合計	4,855,398	5,490,812

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自2021年9月1日 至2021年11月30日)	当第1四半期累計期間 (自2022年9月1日 至2022年11月30日)
売上高	667,348	709,102
売上原価	295,751	294,921
売上総利益	371,596	414,181
販売費及び一般管理費	346,554	388,896
営業利益	25,042	25,284
営業外収益		
受取利息	0	0
補助金収入	893	574
その他	135	6
営業外収益合計	1,029	581
営業外費用		
支払利息	7,702	7,850
株式交付費	-	2,288
地代家賃	43,289	-
その他	455	557
営業外費用合計	51,446	10,696
経常利益又は経常損失(△)	△25,375	15,169
特別利益		
事業譲渡益	0	-
固定資産売却益	-	227
投資有価証券売却益	10,020	-
特別利益合計	10,020	227
特別損失		
減損損失	964	-
固定資産除却損	983	-
投資有価証券評価損	4,999	-
特別損失合計	6,946	-
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△22,302	15,396
法人税等	945	943
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△23,247	14,453

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第1四半期累計期間(自 2021年9月1日 至 2021年11月30日)

該当事項はありません。

当第1四半期累計期間(自 2022年9月1日 至 2022年11月30日)

当社は、2022年11月10日付で、株式会社セブテーニ・ホールディングスから第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第1四半期累計期間において資本金が249,999千円、資本準備金が249,999千円増加し、当第1四半期会計期間末において資本金が801,818千円、資本剰余金が800,460千円となっております。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症の拡大による経済への影響が継続しており、当社の事業活動にも影響を及ぼしております。広告市況の悪化に伴うマンガアプリの広告収益の縮小及び、当社が運営する「&AND HOSTEL」における稼働率や顧客単価の低下等、足元の業績に影響が生じております。依然として収束時期等を予測することは困難な状況にあり、販売用不動産の評価、固定資産に関する減損損失の計上要否の判断及び繰延税金資産の回収可能性の判断等の会計上の見積りを行うにあたっては、財務諸表作成時に入手可能な情報に基づき、2023年8月期以降は段階的に縮小するものと仮定し、会計上の見積りを行っております。

なお、現時点での収束時期を正確に見積ることは困難であることから、上記の仮定に変化が生じた場合には将来における財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期累計期間(自 2021年9月1日 至 2021年11月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	APP事業	RET事業	計		
売上高					
マンガ	546,266	—	546,266	—	546,266
占い	66,112	—	66,112	—	66,112
&AND HOSTEL	—	9,053	9,053	—	9,053
不動産関連	—	9,031	9,031	—	9,031
その他	15,481	865	16,346	1,961	18,307
顧客との契約から生じる収益	627,860	18,950	646,811	1,961	648,772
その他の収益	—	18,576	18,576	—	18,576
外部顧客への売上高	627,860	37,526	665,387	1,961	667,348
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	627,860	37,526	665,387	1,961	667,348
セグメント利益又は損失(△)	138,502	△15,068	123,433	△10,514	112,919

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に新技術等を用いたエンターテイメント領域に係る事業であります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益又は損失	金額
報告セグメント計	123,433
「その他」の区分の損失(△)	△10,514
全社費用(注)	△87,876
四半期損益計算書の営業利益	25,042

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

当第1四半期累計期間(自 2022年9月1日 至 2022年11月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	APP事業	RET事業	計		
売上高					
マンガ	554,793	—	554,793	—	554,793
占い	124,788	—	124,788	—	124,788
&AND HOSTEL	—	794	794	—	794
不動産関連	—	300	300	—	300
その他	8,895	405	9,300	—	9,300
顧客との契約から生じる収益	688,477	1,500	689,977	—	689,977
その他の収益	—	19,124	19,124	—	19,124
外部顧客への売上高	688,477	20,624	709,102	—	709,102
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	688,477	20,624	709,102	—	709,102
セグメント利益又は損失(△)	128,850	△12,024	116,825	670	117,496

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に新技術等を用いたエンターテインメント領域に係る事業であります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益又は損失	金額
報告セグメント計	116,825
「その他」の区分の利益	670
全社費用(注)	△92,211
四半期損益計算書の営業利益	25,284

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。